

## 第57回人権週間について

みなさんにとって「人権」とは、大切なものだという事は分かっている、なかなか考える機会が少なくはありませんか？部落差別をはじめ、女性、子ども、高齢者、障害者、HIV感染者やハンセン病患者などに対する偏見、犯罪被害者問題など、人権問題はいろいろとありますが、これらの問題を考えるきっかけとして、毎年12月4日から10日までの1週間を、人権週間として定めて、さまざまな取り組みが行われています。今回はこの人権週間について、少しお話ししてみたいと思います。

1948年（昭和23年）12月10日、国際連合の第3回総会で世界人権宣言が採択されました。その日を記念し、国際連合は、毎年この12月10日を「人権デー」として、加盟国などに人権思想の啓発のための行事を実施するように呼びかけています。

日本では、毎年12月4日から10日までを「人権週間」と定め、講演会の開催や街頭啓発など、全国的な啓発活動を展開しています。この取り組みは毎年行われ、今年



で57回を数えるまでになりました。

大山町でも期間中の行事として、人権擁護委員さんによる街頭啓発活動やあらゆる人権問題を考える大山町人権・同和教育研究大会などに取り組みます。

みなさん、この人権週間をきっかけに今一度、家庭や学校、あるいは職場において、人権について考えてみませんか。

\*大山町人権・同和教育研究大会は12月10日に保健福祉センターなわで13時30分から開催されます。おさそいあわせておでかけください。

## 発掘現場から⑤

門前上屋敷遺跡の調査速報 その2

当事務所では11月6日に現地説明会を行いました。天気はあいにくの雨でしたが、40人もの方々に来ていただきました。調査自体はもうすぐ終了してしまいましたが、調査の結果は引き続きここで紹介していきたいと思えます。

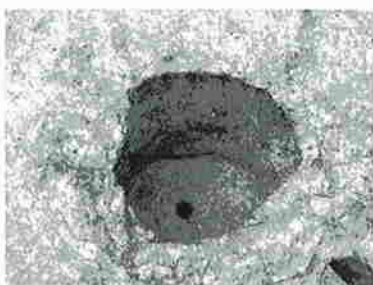
さて、今回は門前上屋敷遺跡の調査成果について述べていきたいと思います。4ヶ月ほど前に調査成果をお伝えしましたが、あれから調査が進み続々と新たな発見がありました。今回はその後、新たに見つかった縄文時代や中世の遺構・遺物を中心に紹介していきます。

まず縄文時代ですが、落とし穴が3基見つかりました。これらの大きさは一辺80cm、深さ1mほどのもので、いずれも底面には直径20cm、深さ30cmほどの小さな穴が掘られていました。この小さな穴は、落ちてきた動物を傷つけるための先の尖った棒を設置するときに掘られたものと考えられています。落とし穴は昨年度の調査でも4基見つかり、門前上屋敷遺跡の一角は狩猟場として利用されていたことが想像できます。

つづいて中世ですが、室町時代ごろと考えられる掘立柱建物が1棟見つかりました。この建物は半分しか調査していませんが、全体の状況がわかりませんが、一辺6mほどの長方形をした建物だったのではないかと考えられます。門前上屋敷遺跡ではこの時期の遺構・遺物はあまり見つかっていません。備前焼や陶磁器などが見つかっただけで、このため、この時期の様子はあまり

よくわからなかったのですが、掘立柱建物の発見によって当時の生活の様子を具体的に知ることができるとは思いませんかと期待できます。

ちなみに、遺跡の西側には造成によって一段高くなったところがあります。地元の方がおっしゃるには、そこはかつて寺屋敷と呼ばれていたそうです。まだこの部分は調査していませんが、寺屋敷があったかどうかはなんともいえませんが、今後の調査の結果によっては、今回見つかった掘立柱建物がこの寺屋敷と関係のある施設だったといえるのかもしれない。



縄文時代の落とし穴の様子



中世（室町時代ごろ）の掘立柱建物の様子

鳥取県埋蔵文化財センター名和調査事務所  
〒689-3205 西伯郡大山町西坪字中松堀 179-5  
電話 0859-54-2671